

# ●●講中を訪ねて●●

## 東村山市 多摩湖町御嶽講

講元 清水 幸夫

所在地 東京都東村山市  
講員数 二十六名  
主幹宮司 馬場 克巳



私達の町は東村山市の北西部にあり、西は多摩湖(村山貯水池)のとなり、北は西武遊園地の南側にあり、面積一キロ平米以下の狭いところです。昔は宅部(やけべ)と言い、下宅部遺跡から縄文時代の土器等が発見されました。さて御嶽講ですが、江戸時代に東馬場御師の先祖が私の五代前の武兵衛を訪ね、講を作って代々私の家が講元を務めております。私が子供の頃は、東馬場御師のヒゲのおじいさん(美作氏)が講員の家を回って私の家に一泊していただいたのを覚えています。その頃は約一〇〇軒の講員がおりました。平成になりだんだんと講員が減り、当初は四年に一度の代参でしたが、三年になり、今は二年に一度の代参となっております。現在二十六名の講員のため、二年後には会費を見直し全員で代参しようとの意見も出ています。また平成二十年より、それまでの電車からマイクバスに変更し、大変楽になっております。代参から帰ってからは、翌日の午後七時より総会、お日待ちを全員で行なっております。私の父の時代までは自宅に講員を集め夜遅くまで宴会をしていました。今は集会所を使用するため十時にお開きとなっております。大口眞神は地元氷川神社の横にある祠と私の家にある御嶽神社に祀っております。辻札も平成十七年までは二本立てておりました。今はやめました。

御嶽講は農家を中心に始まりました。現在農家や商店が減り、講員の減少に悩んでおりますが、現在の方々には続けていきたいとのこと、色々工夫しながら続けたいと思っております。終わりに御嶽神社の益々のご隆盛と、東馬場家のご繁栄をお祈り申し上げます。

## 講と私

御師 高名 都雄

猛暑から解放され、夜毎かんとんの虫の音が秋の訪れを告げるころとなりました。人生永くもありまた短きもの、若くして御師を拝し既に半世紀が過ぎ去りました。この間講中信仰の皆さんと三代に涉り人生感を学ぶことが出来たこと、只感謝いたします。さて今日は私が御師として初めて講中にお伺いした、思い出の信仰心厚い講中をご紹介します。さいたま市の西に位置する字清河寺、古くは寺街として栄えたと聞きおよんでおります。三代に亘り清河寺御嶽講の講元を継承いただく見村家、現在は三代目の温厚な人柄の喜明氏のもと約四十名の講員が結束され、十年毎と太々神楽を奉納し講中繁栄と安全を祈願されております。



また、清河寺の集落には古くからお雛子が伝承され、その名も高く、武蔵御嶽神社の行事等に度々ご奉納をいただいております。平成二十九年酉年式年大祭にもご奉納いただければと考えております。良き関係にあります講中が未永く継続されることを願い、永年の付合、只々感謝いたしますと共に、多くの講中の繁栄と安全を祈願いたしております。

講中名 清河寺御嶽講  
所在地 埼玉県さいたま市  
講員数 約四十名

# オオカミの山を撮り続けること

フォトグラファー 鶴巻育子



2012年の夏、雑誌の撮影依頼がきっかけで初めて御岳山に登りました。予習として、取材同行した小倉美恵子さんの「オオカミの護符」を読んでいたもので、オオカミ信仰、山の歴史などとても興味が湧いていました。しかし、都心の暮らしが好きで、大の虫嫌いの私にとってそれは、実は、正直気が重い仕事だったのです。そんな気持ちでケーブルカーを降りて神社へ向かう足取りも重かったのを今でも覚えております。二匹のオオカミ…紀元前からの信仰…。撮影をしながら、宮司さんや神職の方々の言葉に耳を傾けていると、徐々にワクワクした気持ちが膨らみ、もっと知りたいという思いでいっぱいになり取材が終わる頃には、既に御岳山の虜になっていたのかも知れません。

Tsurumaki Ikuko  
東京都葛飾区生まれ。広告代理店に勤めながら写真を学び、ブライダル写真事務所、カメラマンアシストを経て、写真家として独立。カタログや雑誌の撮影、写真雑誌の執筆のほか、写真講師やセミナーなども多数行っている。



その日は快晴で、都心の夜景がくつきりと現れていました。東京が江戸だったころは、こんなに明るい夜景は存在しなかったでしょうが、昔の人も、この同じ場所で江戸の街を眺めていたのだらうと想像したときは、とても不思議な感覚を覚えました。

一気に御岳山の虜になってしまった私は、その一週間後、自然とこの山に足が向かっていたのです。それからの一年間、仕事よりも御岳山の祭事を優先に数十回と足を運び写真を撮り続けました。そして、一年後の2013年の秋に「東京 オオカミの山」というタイトルで写真展を開催するまでとなったわけです。三年が経った今では、大事に守られている信仰や山の人々の暮らしを撮り続けることが使命のようにも感じています。私が撮影した写真のちに、貴重な記録、ある人にとっては大切な思い出となったら、とても嬉しいと思いつつシャッターを切っています。それを快く迎え入れてくださる山の方々と神様に感謝します。

写真右上  
長尾平から見た男具那の峰。黒い雲が立ち込め、太陽が月のように見えた瞬間。

写真左  
1月3日に行われた大口眞神社祭。男具那社へ遙拝している。

